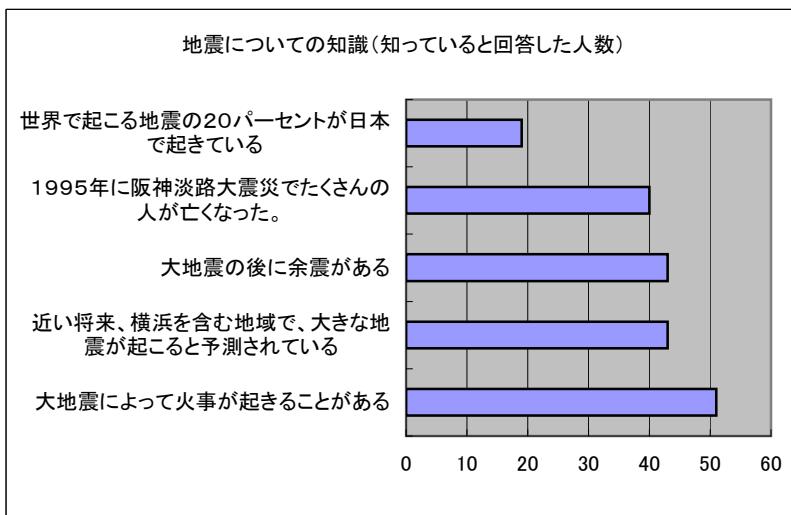
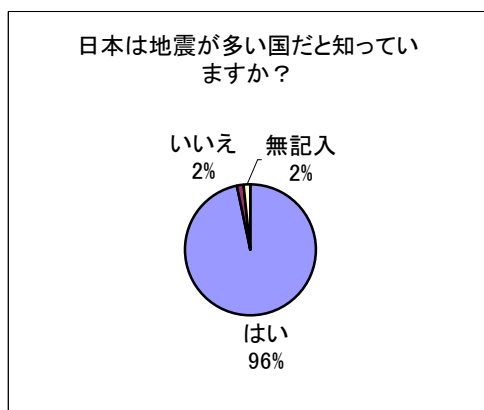
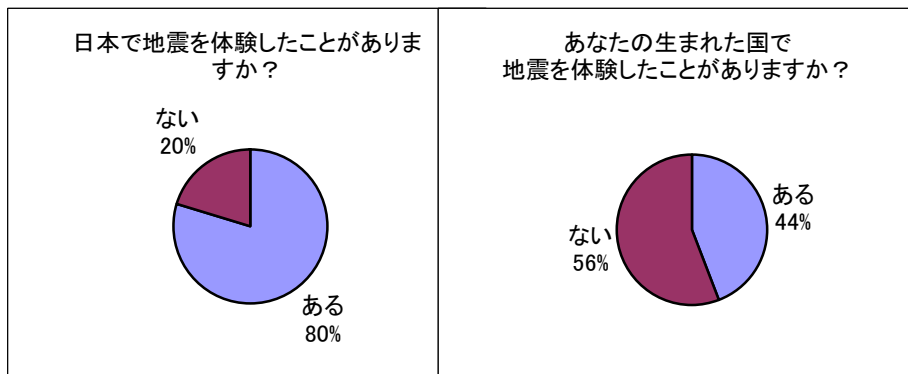


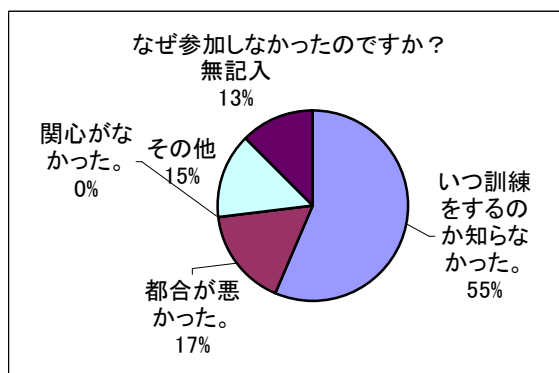
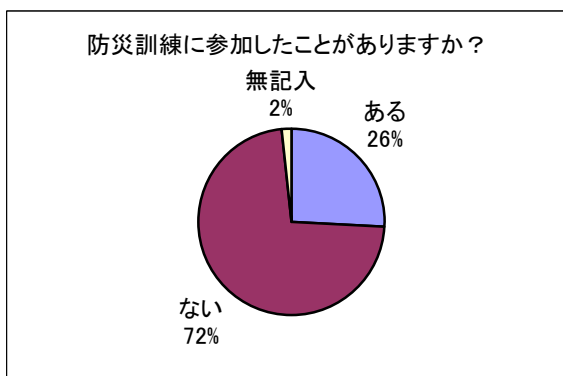
## 地震についての知識、経験



日本滞在年数が1年以上になると、ほとんどの人が日本で地震を体験している。一方、自国で体験した人数の比率はまったく正反対の結果となった。

自分の国と比較して、日本は地震が多い国であることを認識しており、余震や火事などの基本的な情報は9割近くの方が理解していると思われる。

## 防災訓練

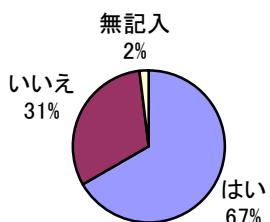


参加者の6割が、3年以上日本に滞在しているにもかかわらず、防災訓練に参加したことがある人はわずかに2割。

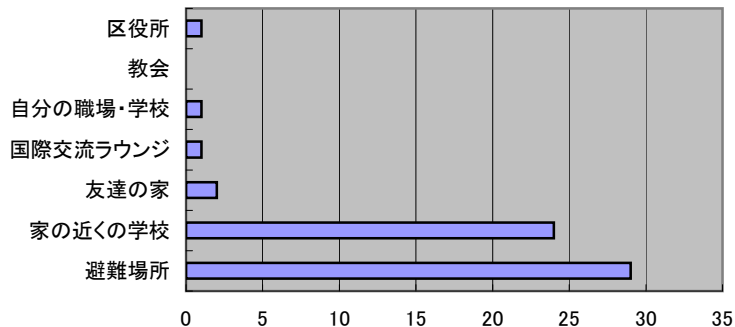
参加したことがない理由を見ると、関心がある人に情報が届いていないという実情があげられる。アンケートに記入はなかったが、言葉が理解できないので、地元の訓練参加に躊躇する声も聞こえた。

## 避難場所について

避難場所では外国人も水や食料をもらえることを知っていますか？



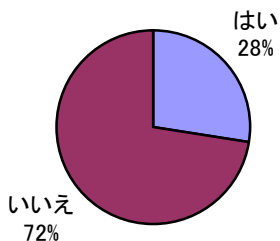
地震が起ったら、どこに逃げますか？



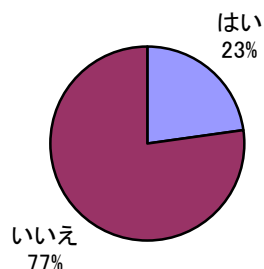
避難場所で水や食料をもらえることを知っているのは7割。また、避難する先としてほとんどの人が避難場所と近くの学校をあげていることから、「詳しいことはわからないが、地震が起ったら学校(避難場所)に逃げる」という認識は、ほとんどの人が持っている。

## 地震対策

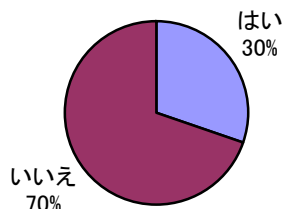
家に水や食料を用意していますか？



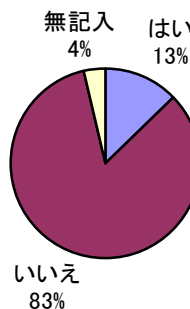
災害伝言ダイヤルを知っていますか？



地震で倒れないように、家具を固定していますか？



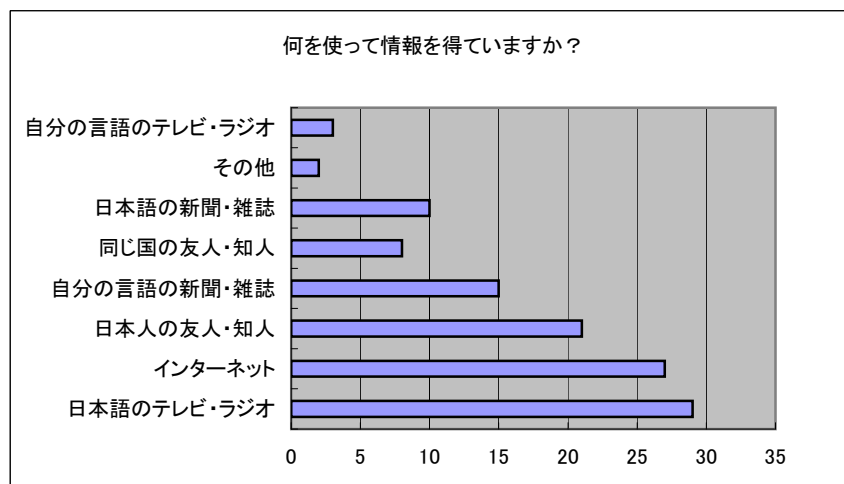
インターFMを聞いたことがありますか？



地震への備えとしては、水や食料の備蓄がもっとも高く、全体の3割。横浜市金沢区で行われたアンケート調査では68%の人が備蓄を行っているため外国人市民の備蓄率は低いともいえるが、全国各自治体での調査でも家庭での備蓄率は3~5割程度であるため、一般的な割合ともいえる。

しかし、災害伝言ダイヤルの認知度は日本人に比べてかなり低い。また、認知したとしても、ガイダンスは日本語のみであるため、実際に利用されるかどうかは疑問。

## 利用媒体



媒体名： NHK,CNN (TV),AFN810(Radio)  
MSN Yahoo Efe  
Internarional press  
Japantimes  
Yokohamayokohama

新聞・雑誌を読む日本語力はなくても、テレビ・ラジオは理解できるためか、日本語放送がもっとも多かった。多言語放送は絶対数が少ないためか、あまり利用されていない(英語放送のみ回答があった)。

インターネットは、言語や国に関係なく高頻度で利用されている。特に、Yahoo、MSN。

## 災害について

地震について不安に思うこと

- (1) 家族との連絡手段をはじめ、地震発生時の対処についての不安
- (2) ケガや家屋倒壊など被害に対する不安
- (3) 災害後の避難生活における不安

地震以外の災害について

- (1) 台風
- (2) 洪水
- (3) 火事

回答の多かった順にまとめた。

地震についての不安は、「エレベーターに閉じ込められたら」「高いところからの避難」といった具体的な状況で災害が発生することへの不安も述べられた。

地震以外の災害については、災害時(台風など)に食料をもらえるかわからないという不安も述べられた。

外国人住民の地震/防災訓練意識調査66名（9月1日…43名、9月6日…6名、2月4日…17名）

